



第1回 例会 消費税のカラクリ

一体改革 もっと知りたい

北海道青年革新懇は、2月29日、第1回目となる例会を開催しました。

前回の会議で、社会保障のTPP問題などいくつかの課題にふれる中、やはり重大な問題である消費税について学習をしたいと声上がり、消費税増税問題をテーマに学習の機会をもつことにしました。

例会では、中部民主商工会の富堂さんが「消費税のカラクリ」と題して講演を行ない、消費税のそもそもの逆進性や大企業優遇の性格、中小業者の経営を破壊しリストラを推進する仕組みなどを分かりやすく解説し、「消費税を増税しても国家の財政は良くならない。応能負担の税制の確立を」と訴えました。

その後、参加者21名で講師を囲んで質問・討議を行いました。「法人税をあげると企業が

海外に出ていかないか」、「国家の税収に占める消費税の割合は?」、「人件費がかかればかかるほど消費税の負担が増える仕組みをもっと詳しく」など質問や意見が絶えず、白熱した真剣な学習会となりました。

参加者は「消費者ではなく消費税を負担している中小業者の抱える問題を知る貴重な機会になった」、「一体改革のことをもっと知りたくなった」など感想をもらっていました。

当日は会員が2名増えましたが、青年革新懇では今後も青年の関心にそって学習活動を進めていく予定です。

☆編集局のつぶやき・・・
毎日触れているはずなのにあまりよく知らない消費税。勉強になりました。(あ)

■北海道革新懇では会員を募集しています!!
政治を変えなきゃという青年は誰でも。